

御書面寺院新規堂上方之猶子相成候儀は、容易に難相成事に候間、安禪寺格等之儀は、是迄之通り御取扱、金紋挾箱網代輿許容有之候共、決而相用間敷旨被御申渡、其段庭田家江一ト通、通達有之候方興存候、

〔當時珍說要秘錄三〕殿中行事之事

一十日○正略は、上野總御靈屋へ被爲成候、○中

一御召駕籠。是は御下臥座一枚敷、天鷲絨御蒲團敷、又御上臥座一枚敷有之、

一御召替御駕籠。是は御下臥座、天鷲絨御蒲團、御上臥座敷之、羅紗雨覆を掛候て出之なり、

一兔御雨覆御窓掛三枚入出之。是は御召駕籠の雨覆なり

〔近世公實嚴秘錄二〕御成の節、御共に出る御道具の事、并水戸養仙院殿御出之節、雨ふりし事、○中

御鷹野の節、○中野田御駕籠とて、網代むさうの引出しまど、御障子入の御駕籠、御下臥座中びら

うどの御ふとん、又御上臥座敷て御伽羅をたき込候なり、此野田の御駕籠は、能鍛候御かごにて、

鎧のごとく鍵を以突にうらか、ず、矢を以て射に通らず、御かご師のり物町岡田九左衛門秘傳

の作と云なり、

〔守貞漫稿後集三〕御忍駕籠○圖略

潛行俗ニオシノビト云、大名モ潛行ノ時用之、室モ潛ニハ用之、男用ト異ナルナシ、隱居ナドモ用

之、全體塵打、其大サ乗物ト均シク、又皆精製也、棒兩端細カラズ、黒塗也、カゴモ腰黒也、日覆黒ラシ

ヤ、

留守居駕。留守居ハ武家ノ役名、重臣ニ非レドモ、外事ヲ務ル、故ニ專是ニ乗ル、家老以下重臣ハ、

自國及旅中ニハ、乗物ヲ用フレドモ、在府ノ日ハ、憚之コト多ケレバ、又用之、駕籠ニハ、桐棒ヲ用フ、

以下皆然リ、蓋留守居カゴ、棒素ヲ專トスレドモ、又溜塗ニスルモアリ、黒ハナシ、轎夫四人ヲ用ヒ